

佐藤善一先生追悼

猪 貴 義

岡山実験動物研究会名誉会員

戦後、わが国における実験動物研究会の創設期において、安東洪次、田嶋嘉雄両先生を助け、わが国の実験動物研究と実験動物産業の発展のために貢献され、晩年においては、主として日中、日韓、日台の学会・協会・業会などの交流促進を果たされた佐藤善一先生が去る5月15日に急逝されました。先生は、岡山実験動物研究会発足当初からの会員でもあります。

ご遺族の話によりますと、4月には仕事の関係で訪中し、4月27日に帰国、4月30日に体調の不良を訴えて入院し、5月15日にご逝去されたとのことでした。

享年は80歳、直接の診断は癌性腹膜炎とされています。周辺にいた多くの知人・友人も病状がそれほど進行していることに気づかず、私自身、突然の訃報に接し、愕然といたしました。

佐藤善一先生は、戦後、旧満州帝国より帰国後、社団法人実験動物中央研究所に勤務、後に日本クレア株式会社代表取締役専務、株式会社エルエステイ代表取締役、株式会社アニマルケア技術顧問などをつとめるかたわら、日本実験動物学会の理事、評議員、監事などを歴任し、また、日本実験動物器材協議会、理事長などにも就任し、わが国の実験動物研究と実験動物産業の発展のために、その生涯を捧げた方です。1998年には、永年に

わたるご功績により、日本実験動物学会功労賞を受賞されております。

また、日中、日韓、日台との学会・協会・業会との交流発展のためにも尽力され、数多くの実験動物関連研究機関の建設、立ち上げ、運営などにもかかわってまいりました。さらに、中国、韓国、台湾、東南アジアにおける実験動物研究留学生の受入れの窓口としての役割も果たされ、その業績は海外からも高く評価されています。中国実験動物学会及び韓国実験動物学会から、名誉会員の推挙を受けております。

佐藤善一先生と岡山実験動物研究会との関係は、研究会発足当初から正会員として、また、賛助会員（株式会社アニマルケア）としても参加していただき、研究会発展のために多大なご協力とご支援をたまわりました。また、1987年、岡山において開催された「第34回日本実験動物学会総会」には、日本実験動物器材協議会理事長として、総会運営にも参加していただき、実験動物・動物実験用器具・器材展示会を見事に成功させていただきました。

私は、これまで、佐藤善一先生とは40年近くご厚誼をいただいていたまいりましたが、人間として、なんとも言われない温味と包容力をもった魅力のある人で、誰からも慕われ、実験動物に関する広い識見、将来にむけての先見性と実行力はわが国の学会・協会・業会にとってはまことに得難いもので、先生のご逝去は、まことに、大きな損失であり、残念でなりません。

わが国の実験動物研究が50年を経過した今日、先人の果たされた業績を正しく評価し、将来にむけて誤りのない方向をめざすことが、先生のご遺志にむくいる道であろうと考えます。

終わりに、先生のご逝去を悼み、残された数々の業績を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

合掌

